

ワーキンググループ(第3回) おこなを行いました!

◆ 開催概要

日時: 令和6年2月16日(金曜日) 13時30分から 17時

場所: 県立相模原公園 研修室

- 内容:
- ・遊具体験会とアンケートの結果について
 - ・施設整備に向けた視点について
 - ・遊具広場全体の整備方針について
 - ・施設の配置計画について

参加者:

- ・NPO法人相模原市障害児者福祉団体連絡協議会
- ・NPO法人フュージョンコムかながわ・県肢体不自由児協会
- ・県立相模原支援学校PTA
- ・県立相模原支援学校
- ・県立相模原中央支援学校
- ・県立相模原公園指定管理者

【遊具体験会とアンケートの結果】

体験会には、障がいのあるお子さんをはじめ多くの子どもやそのご家族の参加をいただいたこと、来場者の97%の方に満足いただけたこと、今後の広場整備へのご意見などを数多くいただけたことを報告しました。

遊具体験会

○開催期間 令和5年11月1日～12日

○開催場所 相模原公園 芝生広場

○設置遊具 インクルーシブ遊具 15基

○来場者数 3,657人

○遊具人気投票の結果

1位 ユニバーサルブランコ



2位 ウェーブワーム



3位 オムニスピナー



※遊具体験会の実施記録及びアンケート結果は、県津久井治水センターホームページで公表しています。

【施設整備に向けた視点】

ワーキンググループでの議論やアンケートのご意見を踏まえ、インクルーシブな遊具広場を整備する上で大切な視点(案)を提示し、意見交換を行いました。

遊具についての視点(案)

- ① 様々な障がいの子が遊べる遊具があること
- ② 幅広い遊びのニーズに対応するため、様々な遊びの選択肢があること
- ③ また来たいと思える個性のある遊び場であること
- ④ 遊びやすさや安全に配慮されていること



①の事例
介助者が一緒に使える遊具



①の事例
感触を楽しめる遊具

施設についての視点(案)

- ⑥ 安全で快適に利用できること
- ⑦ 休憩・休息がしやすいこと
- ⑧ 子どもの見守りがしやすいこと
- ⑨ 遊び場を利用しやすい環境づくり
- ⑩ 遊び場までのアクセスがしやすいこと



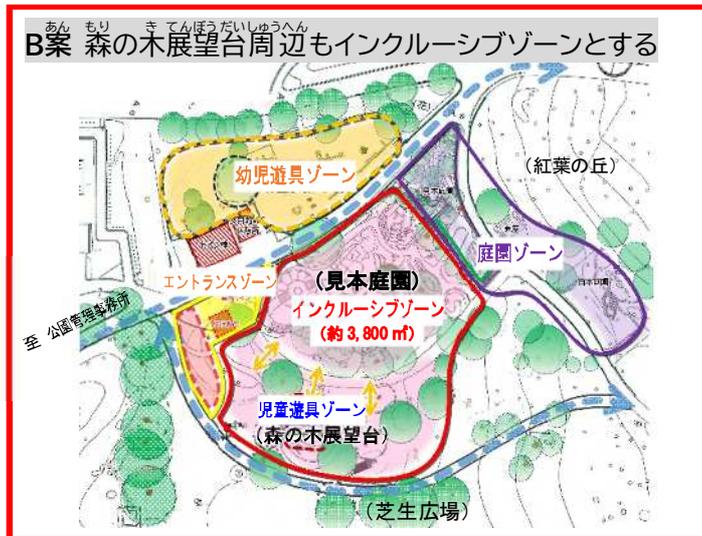
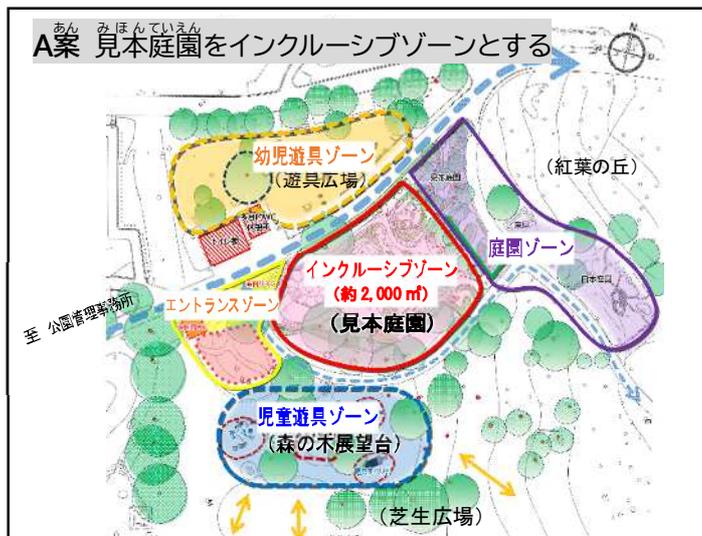
⑥の事例
怪我をしにくい柔らかい舗装

運用についての視点(案)

- ⑪ 誰もが楽しく遊べる場であることを伝え、理解を促す場であること
- ⑫ 障がいのある子が来やすい環境づくり

【遊具広場全体の整備方針】

整備予定地を再度確認して、インクルーシブな遊具等を設置するインクルーシブゾーンを、B案のとおり設定することとしました。



○主な意見

- ▶インクルーシブゾーンは、障がい者のための遊び場ではなく、障がいのある子もいない子も一緒に遊べるように、多様な遊具の中から選んで遊べるようにした方がよい。
- ▶子どもの見守りの視点では、範囲が狭いA案がよいが、障がいのある子どもたちは、それぞれの子のペースで動くので、広い空間にいくつか遊具があって自由に色々遊べるB案の方がよい。
- ▶B案は範囲が広いが、中央付近を園路で区切り、色分けするなどの工夫をすれば、子どもに行動範囲の指示を伝えやすくなり、見守りやすくなる。

などのご意見をいただきました。

【施設の配置計画】

決定したB案をもとに、広場内の遊具や休憩施設の配置の考え方などについて、意見交換を行いました。

○主な意見

- ▶遊び場を見守れるように、休憩施設は何か所も整備した方がよい。
- ▶小さい遊具の近くに休憩施設が配置されていると見守りやすい。
- ▶築山はゾーンの端につくり、全体を見渡せるようにした方がよい。
- ▶揺れる系の遊具は、どんな子どもにも人気があるので、同じところにつも並べずに、場所を分けて配置した方がよい。

などのご意見をいただきました。



大判の図面上に遊具を模したパーツを置きながら配置を検討しました。

◆今後の予定

ワーキンググループでの検討結果を踏まえ、広場計画の作成を進めていきます。次回のワーキンググループでは、具体的に設置する遊具や施設などについて検討する予定です。

もう少し詳しく
知りたい方は、
こちらをチェック



津久井治水センターHP

◆問合せ先

神奈川県厚木土木事務所津久井治水センター

工務課公園班

電話

042-784-1111(代表)

令和6年3月